



2020. 5. 1

全国初「基幹系システム・フロントランナー・サポートハブ」支援案件に決定

静岡銀行(頭取 柴田 久)では、金融庁が金融機関の基幹系システムに関する先進的な取り組みを支援するために設置した「基幹系システム・フロントランナー・サポートハブ」に申請し、第1号案件として支援が決定しましたので、その概要をご案内します。

1. 決定日 4月30日(木)

2. 「基幹系システム・フロントランナー・サポートハブ」について

- 現在、社会のさまざまな領域で構造変化が進展し、金融分野においてもスピード感をもって多様化する金融ニーズに対応することが求められています。
- また、金融機関が将来を展望した成長戦略を展開するためには、より先進的な金融システムを実現することが重要であり、とくに経営基盤の要となる基幹系システムについては、柔軟性と生産性を実現できるシステムに進化させていく必要があります。
- こうしたなか、一部の金融機関では、新たに基幹系システムに関する取り組みを開始しており、金融庁ではこうした動きを支援するために、本年3月に「基幹系システム・フロントランナー・サポートハブ」を設置しました。
- 金融庁では、支援案件に対して、ITガバナンスやITに関するリスク管理等システムモニタリングなどの観点から議論を重ねながら支援に取り組みます。

3. 選定におけるチェック項目

- ①基幹系システムの開発・更改により、業界全体のデジタルイゼーション進展や生産性向上、わが国における利用者利便の生産性向上が見込まれること(社会的意義)
- ②実現しようとする基幹系システムの開発・更新に先進性が認められること(先進性)
- ③基幹系システムの開発・更改において、利用者保護上の適切な対応が確保されること(利用者保護)
- ④基幹系システムの開発・更改に必要な資金・人員等のリソースが確保されていること(遂行可能性)

4. 静岡銀行の取り組みについて

- 現在、静岡銀行では、お客さまのニーズに応じた先進的で付加価値の高い商品・サービスの提供や、営業体制の変革・営業チャネル拡充等にも柔軟かつスピーディに対応できる機能を保有する「次世代システム」の構築に取り組んでいます。
- 具体的には、オープン系技術を活用した記帳決済システムの導入により、ハードウェアやロケーションの自由選択を可能とすること、システム機能のコンポーネント化や疎結合化により、外部サービスとの機動的な接続を可能とすることなどを検討しています。
- 今般、「基幹系システム・フロントランナー・サポートハブ」の第1号案件に選ばれたことで、今後は金融庁の支援を得ながら、より一層お客さまの利便性向上や安全性・安定性を追求したシステムの構築をめざして取り組みます。